東北女子大学・東北女子短期大学　紀要　No.56：83～88　2017

環境に配慮した消費生活を考える
－エコバッグづくりを通して－

工　藤　寧　子*

Consideration for environmental friendly consumption
–through making eco bags–

Yasuko KUDO*

Key words : 環境　environment
エコバッグ　eco bag
消費生活　consumption

1．序論

大量生産によって、自分の好みのものが入手しやすくなり、愛着があるものでさえ、捨てやすくなった。また、近年、雑誌や新聞などで「シックスポケット」という言葉を耳にする機会がある。少子化により、一人の子どもにかけるお金の財源が、両親と両親の祖母の６人と、大きくなっている。さらに、晩婚化の影響でお金に余裕があるおじやおばが加わり、８ポケットもしくは10ポケットとも言われている。さらに、孫に高額商品を与えるシニアを狙った商品販売戦略も存在する。ものに対する価値観が個々の家庭で異なり、子ども一人ひとりに合わせた、ものやお金を大切にする教育が求められる。また、ものを大切に使用することで、ゴミの削減につながり各々が環境問題に配慮した生活を送るきっかけにしたい。

家庭科における環境教育について、現行の小・中学校の学習指導要領を確認すると、小学校では「Ｄ身近な消費生活と環境」の（1）ものや金銭の使い方と買い物、(2）環境に配慮した生活の工夫にあたり、中学校では、「Ｄ身近な消費生活と環境」の（1）家庭生活と消費、(2）家庭生活と環境にあたる。

環境省によると１人１日当たりのごみ排出量は2015 年で 939g と、2000 年の 1,185g のピーク時よりは減少している。

この背景としてごみの削減や二酸化炭素排出削減のため、レジ袋を有料化したことも関連があると推察する。現在では、エコバッグがないと、レジ袋を購入しなければならず、エコバッグは私たちにとって身近なものである。そこで、環境教育の題材をエコバッグに設定する。

エコバッグの家庭科での取り扱いは、小学校の教科書では「Ｄ身近な消費生活と環境」の内容の中で「リメイク（リユース）の一例」として取り扱い（開隆堂，東京書籍)、「Ｃ快適な衣服と住まい」と横断的に学習している。中学校の教科書では「Ｄ身近な消費生活と環境」の内容の中で「リデュースの一例として、買い物袋の持参」が記載され（東京書籍)、横断的に「Ｃ衣生活・住生活と自立」でも学んでいる（開隆堂，東京書籍)。また、小学校で学んだ知識を、中学校で関連つけて、縦断的学習をしていた。

これらのことから、エコバッグづくりを通して、環境に配慮する消費生活を考えることができることがわかった。

本研究では、小学生から大人まで幅広い年齢層を対象に、以下の目的で本学公開講座を行った。

・エコバッグづくりを通し、環境に配慮する消費生活を考えられるようにする。
・ものづくりを通して、つくる楽しみや大切にする気持ち、感謝する心を育む。

＊東北女子大学

・目的や用途に合わせて、材料を選び、制作する技術を身に付ける。

2. エコバッグの選定

環境に配慮した生活を受講生に意識してもらうために、長く使用でき、使う頻度が多いエコバッグになるように配慮した。また、楽しく制作できるように、簡単に作れるエコバッグを考えた。

①生地について

生地の厚さは厚地を使用して、何度も使用できる、丈夫な生地にする。

素材は、縫いやすく、ほどけにくい、取り扱いが便利な綿100％を選んだ。また、熱に強く、洗濯もできるため、衛生的に使用できる。

②デザインについて

機能性を重視して、リュック、手さげバッグ、巾着バッグの３つの用途で使用できる３wayのエコバッグにした（図１）。また、１ℓの牛乳紙パックが入る縦長の形にして、マチも付けた。複数のバッグを購入しなくてもこのエコバッグ一つで楽しめ、使用できるように考えた。

図１　エコバッグの見本

３．活動内容

(1) 講習会の準備

受講生は、小学生から大人まで年齢層が広く、裁縫の経験や習熟度は、当日作業しないとわからない。なるべく、初心者でもわかるように、教材の準備を行った。

①テキスト

テキストに写真を入れて、作業手順が理解しやすいように工夫する（図２）。

②黒板

工程ごとに作業手順がわかるように掲示する（図３）。

③布標本

工程ごとに布標本を準備した。また、布標本の中にコメントを書き加えた（図４）。

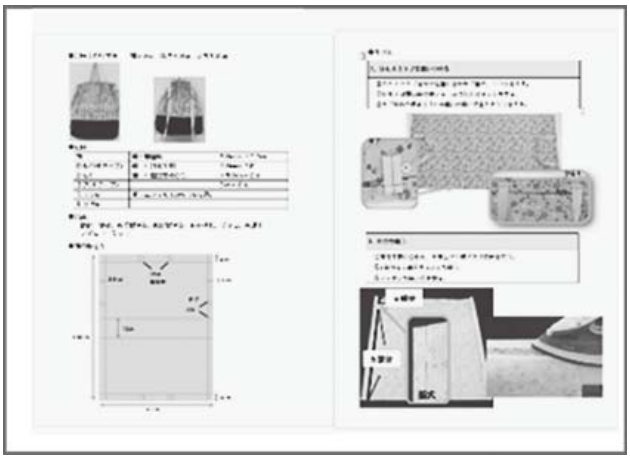

図２　テキストの例

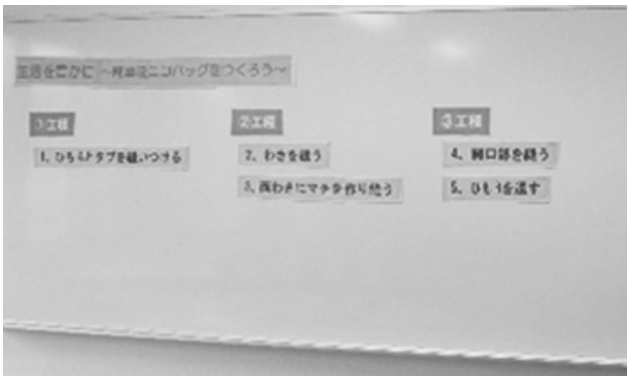

図３　黒板の例

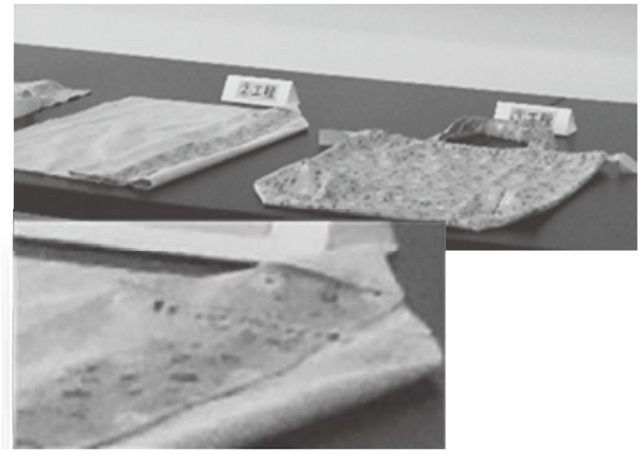

図４　コメント入り布標本の例

（2）公開講座の概要

実 施 日：平成 28 年 4 月 29 日
参 加 者：小学生：２名（３年，５年）、
　　40 歳代：２名、
　　50 歳代：１名、
　　60 歳代：１名　　計６名
場　　所：東北女子大学

（3）実施内容

①環境に配慮した消費生活について、エコバッグを通して伝える

・エコバッグについて

エコバッグとは、スーパーなどに買い物に行くときに、レジ袋を使用せず、持参するマイバッグのことで、地球温暖化対策の一つとして始められた。現在は、価格も幅広く、有名ブランドからも販売されるほどエコバッグに注目が集まっている。再度、身近なエコバッグを通して環境に配慮する生活を見直し、ものを大切にする心や感謝する気持ちを思い出してもらう。

・機能性やデザイン

各自でエコバッグのデザインを今後考えてもらうために、折りたためるエコバッグや保冷材のエコバッグなど、機能やデザインの違うエコバッグの実物を紹介する。

・素材

布はくり返しいろいろなものにリメイクして使用できることを伝え、その例に、２枚の布を縫い合わせてバイカラーに製作した見本のエコバッグを見せる。布は、端切れでも縫い合わせることが可能であり、環境にやさしい。

また、素材により、イメージに変化が生まれることを気付いてもらうため、同じ型紙で綿 100％の布とポリエステル 100％の布で製作した見本のエコバッグを見せる（図５）。

図５　素材違いエコバッグの例

お金をかけなくても、不用材料で代用できることを伝る。一例として、開口部のひもをお菓子の包装のリボンテープで代用して、不用の布以外にも利用できることを紹介する（図６）。

図６　不用材料の使用例

・使いやすさ

いつ、何を入れて使用するのかなど用途にあわせる。

・付加価値

エコバッグを自分で製作することで、オリジナルバッグが作れる。また、使いやすいく自分に合ったエコバッグができるため、大切に長く使用することでごみが減り、環境に配慮した生活を送ることができることを伝える。

②エコバッグづくりの流れと製作の様子

1. ひもとタブを縫い付ける

2. 両わきを縫う

3. マチをつくり縫う

4. 開口部を縫う

5. ひもを通す

③エコバッグを受講者同士で評価

エコバッグを受講者全員で見せ合い評価（図７）、その後、エコバッグを活用して、環境に配慮した消費生活を実行するように伝える。

図７　完成した後の様子

4. 公開講座終了後の調査

受講生のエコバッグの所持状況や使用目的、エコバッグづくりを通して、環境に配慮した生活を考えるきっかけになったかを知るため、公開講座終了後に質問紙調査を実施した。

調 査 日：平成 28 年４月
調査対象：６名
調査内容：８項目
調査方法：無記名式の質問紙調査
調査結果（n= ６）

①エコバッグを持っているのか

全員が持っていると回答した。

②エコバッグの所持枚数

１枚	１名
２枚	２名
５枚	２名
10枚	１名

③エコバッグを購入した理由

・折りたたんで持ち運べる
・買い物かごに合う大きさ
・レジ袋位の大きさ
・レジ袋が有料になったので、節約のため
・景品でもらった
・不要になった傘を使って作った

④エコバッグを持ち歩いているか

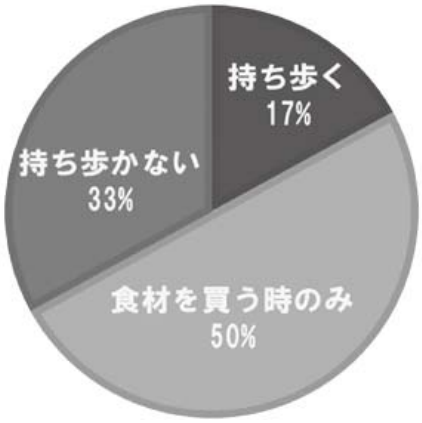

図８　エコバッグの携帯状況 (n=6)

⑤製作したエコバッグを使用するか

使用したい	５名
できれば使用したい	１名

⑥環境を配慮した生活について、振り返るきっかけになったか

きっかけとなった	５名
まあまあなった	１名

⑦講座内容

全員が「わかった」と回答した。

⑧その他

・親子で参加できる講座は魅力的
・年数回、シリーズでの開催があればよい
・定員を増やしてもらいたい
・またやってもらいたい
・とても参考になった

5. 結論

エコバッグづくりを通して、受講生は「環境に配慮した生活を振り返ることができた」と答えた。環境に配慮した、消費行動を考えるきっかけづくりになった。

また、エコバッグを完成させることで、達成感や満足感、自信につながり、自己肯定感が高まることも考えられる。

「製作したエコバッグを使用するか」では、おおむね使用したいと回答した。自分で製作したことで、ものへの愛着がわき、ものを大切にする心を育む一歩になった。ますます、自分好みのデザインや大きさ、色、機能性のエコバッグを材料を工夫して作ることで、ものを大切にしようとする効果やゴミの削減の意識が高まることが予想される。

さらに、家庭科を学んでいない小学校低学年でもミシンの使い方や作り方を教えることで、ミシンを使用してエコバッグを製作することができた。この日常生活で使用するエコバッグづくり体験は、ものづくりに興味・関心をもたせるだけでなく、児童にとって、自信や生きる力を育むことにもつながると推察する。また、幼少期に自分が使用するものを手作りすることで、よりものを大切にする心を育てる効果が高くなると考える。

ものの価値を再度改め、自からの生活を振り返ることは環境教育につながる。

引用文献

１）環境省，平成29年版環境・循環型社会・生物多様性白書（2017）
http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h29/pdf.html
２）文部科学省 ,小学校学習指導要領解説家庭科編 ,東京：東洋館（2008）

3）文部科学省,中学校学習指導要領解説技術・家庭科編,東京：教育図書(2008)
4）内野紀子他,小学校わたしたちの家庭科５・６,東京,開隆堂(2017)
5）渡邊彩子他,新編新しい家庭５・６,東京,東京書籍(2017)
6）大竹美登利他,技術・家庭 家庭分野,東京,開隆堂(2017)
7）佐藤文子他,新編新しい技術・家庭 家庭分野自立と共生を目指して,東京,東京書籍(2017)